

## 呼びかけは「目的」ではなく「手段」

「ぼくは学習委員として呼びかけをしています。二期では『学習の質の向上』を考えて、さらに声をかけていきたいです。(後略)」

私の元に届いた一年〇組の学級通信には、四人の生徒の文章が載せられていました。右の文章は、そのうちの一つです。その四人の文章に最も多く使われていた言葉が「呼びかけ」です。

この「呼びかけ」という言葉、最近はテレビを見ていて結構耳にしますよ。どんな時に出てきているか、わかりますか。

「…：政府は、不要不急の外出を控えるよう国民に呼びかけています。」

政府の呼びかけとは裏腹に、感染者は一向に減りません。とりわけ東京では、連日感染者二百人越え。呼びかけで人々の心を変えるのは難しいという現実があります。しかし、ここは東京ではありません。一人一人が向上することを目指して集(つど)った学校です。多くの仲間が呼びかけを受け入れてくれるでしょう。

だからこそ意識してほしいのが、呼びかけによって集団がどのように変わったのかということです。ふと我を忘れていた自分に気付けた仲間が、呼びかけで変わるこゝとができれば、それが成果です。呼びかけた人は、その成果を確認して思いを語ってください。難しいことを言わなくてもよいのです。自分の呼びかけに仲間が応えてくれたことをどう思ったのか。それを伝えることが大切ですよ。

これまでは、立場のある人が呼びかけて終わっていたことが多かったのではないのでしょうか。呼びかけに応えたことで、どのような成果があったのか。その成果を呼びかけた人は、どのように受け止めたのか。それを知らせるべきだと私は思います。

呼びかけは「目的」ではありません。それは「手段」です。手段を実践しただけでは成果にはなりません。その手段をしたことによって、どんな変化があったのかをはっきりさせましょう。呼びかけが必要なかったと言えることが最も良い成果だ、ということをお忘れなくね！

(七月十三日 記)